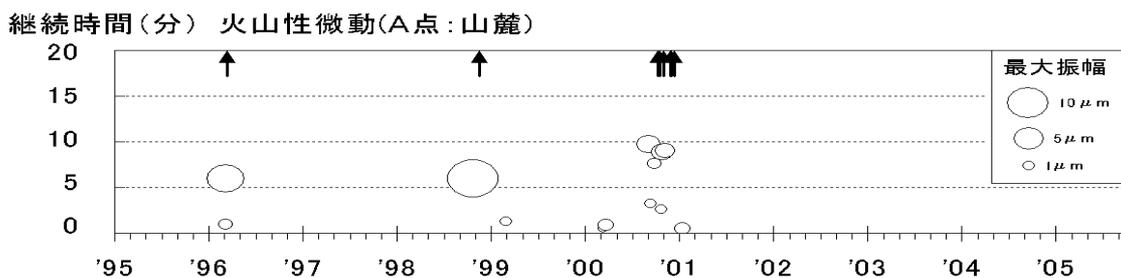
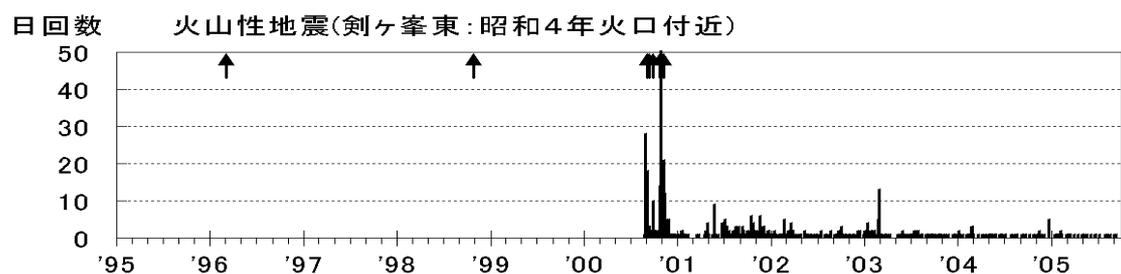
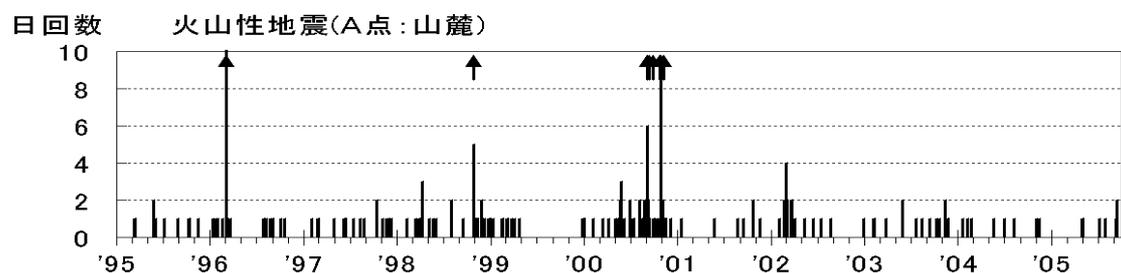
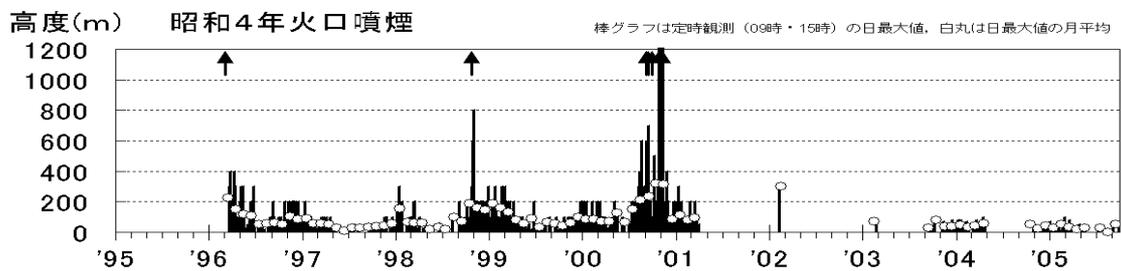
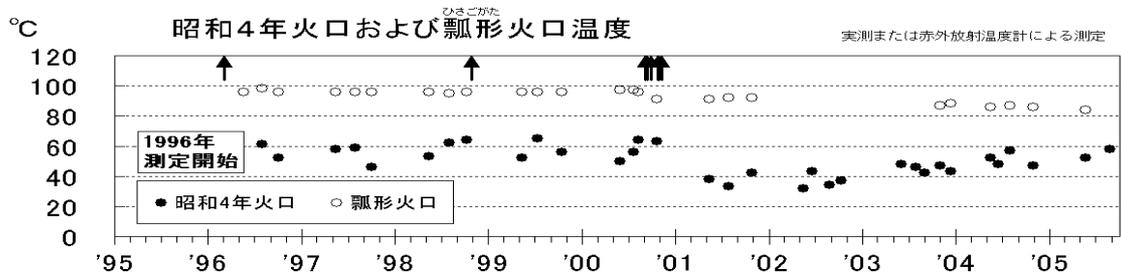


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003年9月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2005年9月30日) 印は噴火

2 噴煙の状況

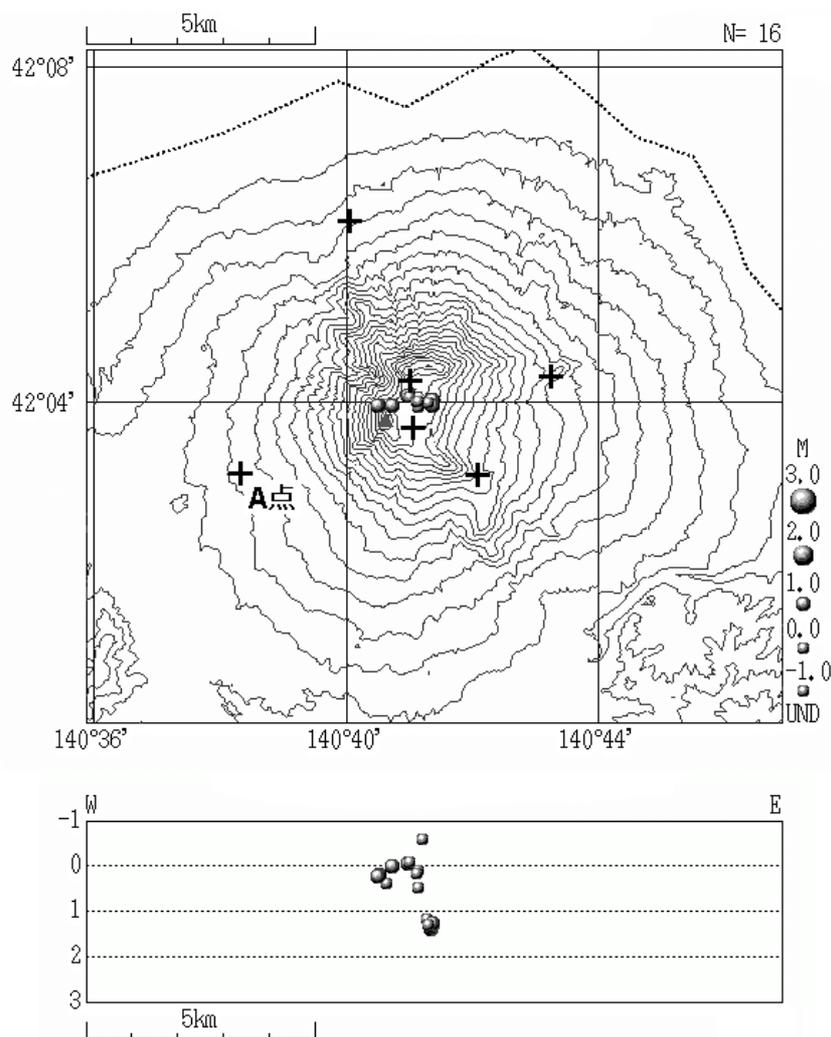
2003年9月以降、昭和4年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A点で観測された火山性地震は3回でした。山頂観測点で観測されたごく微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(A点)

2004~2005年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	0	2	0	0	0	0	1	1	0	2	0	3
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

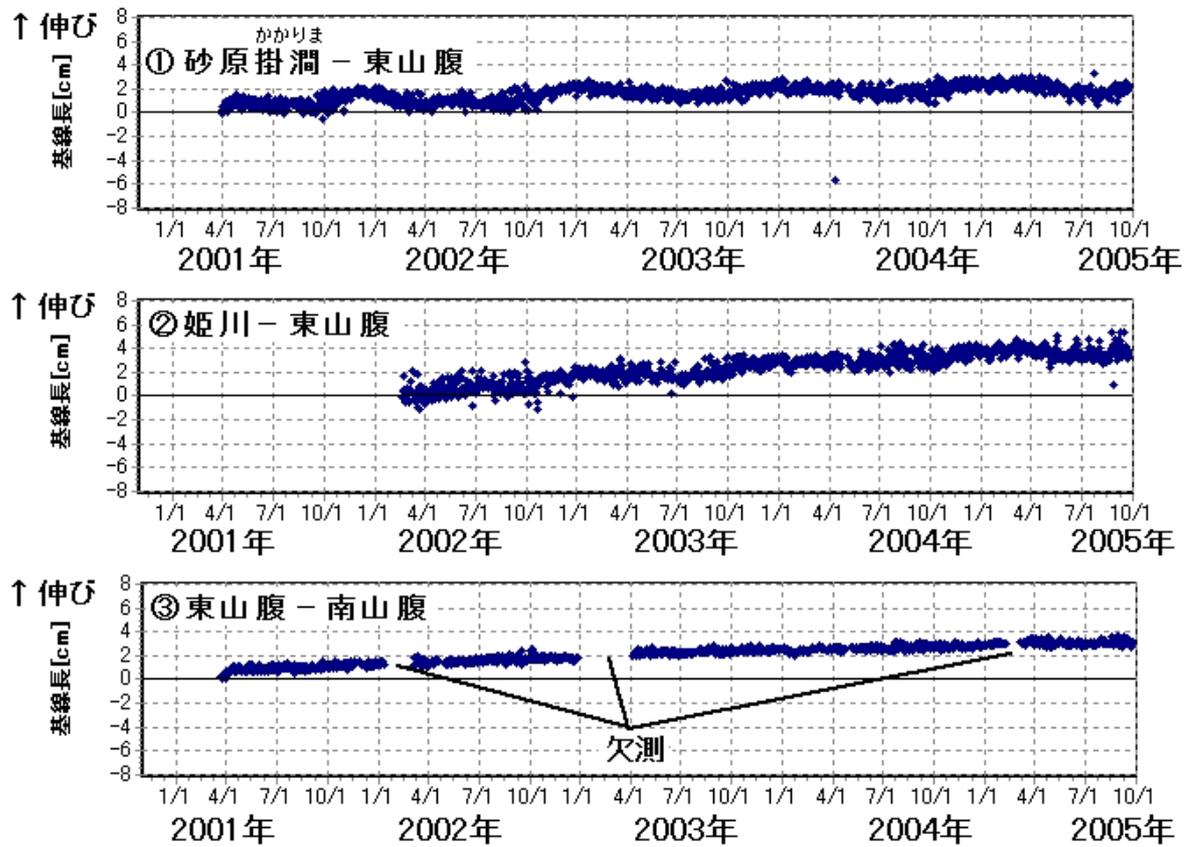
図は前期間までの11ヶ月間(2004年10月1日~2005年8月31日)に求めた震源を示しています。

震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と海面下1~2kmに分布しています。

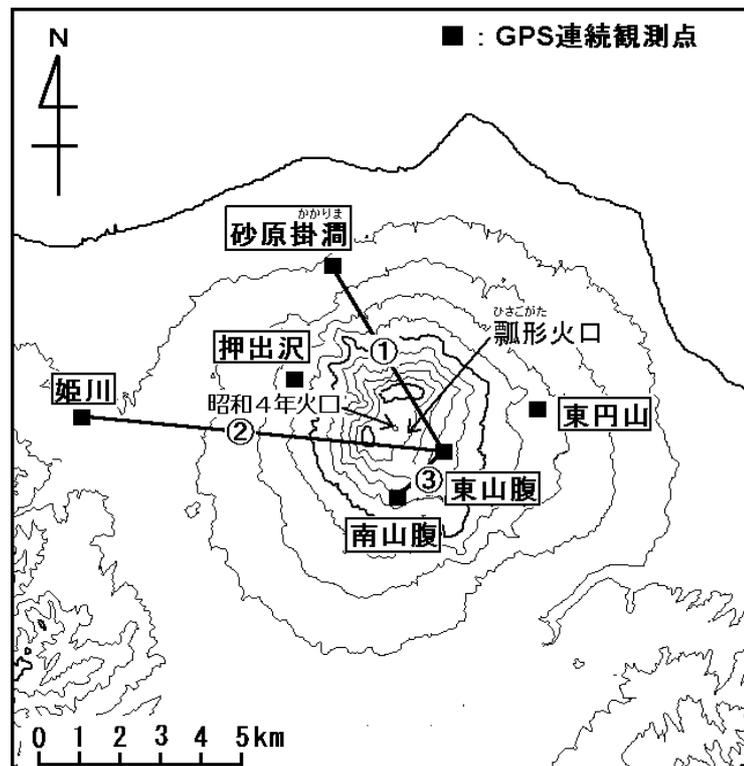
今期間(2005年9月1日~30日)に震源が求めた火山性地震はありませんでした。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化(2001年3月23日~2005年9月30日)

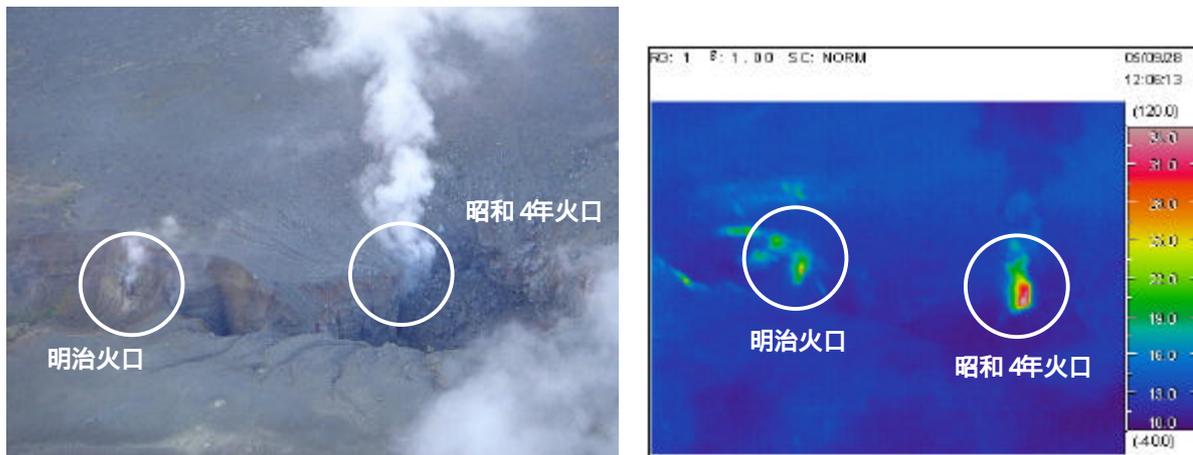


5 上空からの観測結果

9月28日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、本年8月に行った調査観測結果と比較して、活動状況に変化は見られませんでした。

昭和4年火口では2000年噴火のあった南側内壁部分から立ち上がる少量の弱い白色の噴気が認められ、明治火口からもごく弱い白色の噴気が認められました。

赤外熱映像装置*による観測では、各火口周辺の温度分布に変化は認められませんでした。

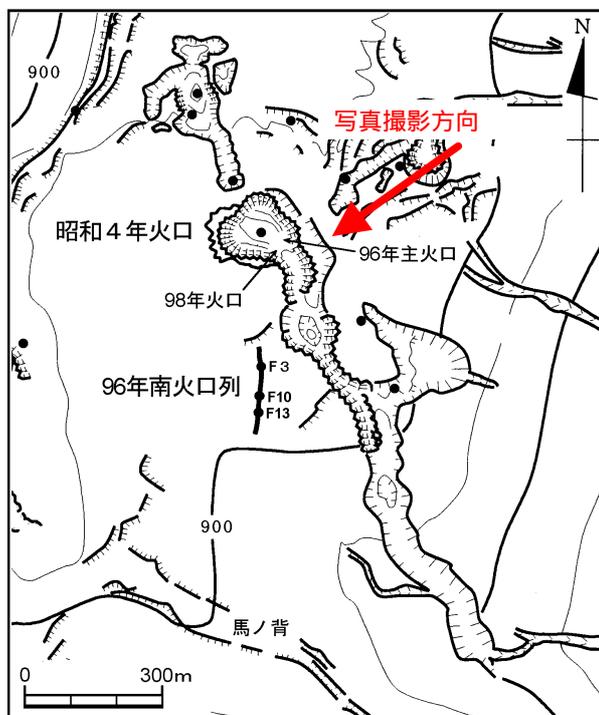


左：北東側上空（下図赤矢印）から撮影した昭和4年火口および明治火口

右：赤外熱映像装置による表面温度分布

いずれの火口からも弱い白色の噴気があり、噴気箇所に対応した高温域が認められます。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



駒ヶ岳山頂火口周辺図